

## 「加治木中学校の天吹・薬丸自顕流」伝承活動の取組

### 1 学校名

始良市立加治木中学校

### 2 学年・人数

1年生1クラス（計40人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

加治木中学校の教室や武道館等（6月～11月）の総合的な学習の時間

#### (2) 発表の場所・日時

加治木中学校総合文化祭（11月）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

#### (1) 名称

天吹(てんぷく)

薬丸自顕流(やくまるじげんりゅう)

#### (2) 由来

加治木はもと加治木郷と称する一郷村であった。鹿児島は藩政が敷かれる前から外城制度を設けていた。外城制度の名称は現鹿児島市内が城下町で、それ以外の郊外の要所に出城を設けたことに由来する。その外城が置かれていたところは郷と呼ばれ、そこに住む侍たちは、「郷士」と呼ばれた。

郷士の子供たちは、武道の鍛錬を積むほかに、天吹や薩摩琵琶を稽古し、その歌詞など通じて精神面での修養を積んでいたという。薬丸自顕流，天吹，琵琶を3つの嗜みとしていたのである。

（『薩摩の秘剣 2005』島津義秀著より）

#### (3) 構成等

天吹・・・30cmほどのコサン竹（布袋竹）の縦笛

薬丸自顕流・・・古来より薩摩に伝わる伝統的武術

### 5 保存会や地域との連携の具体

薩摩藩には「郷中教育」と呼ばれる心身の鍛錬の為の青少年教育があった。

加治木の精矛（くわしほこ）神社（加治木で晩年を過ごした武将島津義弘公を祀った神社）では、年長者が年少者に指導するかたちで、薬丸自顕流などの武術，「天吹」などの楽器の演奏，漢詩などを学んでおり，その郷中教育の流れは明治時代には「学舎（がくしゃ）」と名前を変え，存続した。平成12年，精矛神社宮司である島津義秀氏らを中心に加治木の学舎「青雲舎」の復興を念頭に現代に即した青少年の教育の場として「青雲舎」を再興するに至った。

現在は小・中学生を中心に天吹，薬丸自顕流の練習を毎週土曜日の15時から17時まで行っている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

1年生の総合的な学習の時間に「郷土教育学習」があり、その取組の一つに天吹と薬丸自頭流の学習がある。講師による指導のもと1年生1クラスが練習に励んでいる。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



天吹の練習の様子



総合文化祭での天吹の発表



総合文化祭での薬丸自頭流の発表



薬丸自頭流の練習の様子

## 8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 総合学習で初めて薬丸自頭流のビデオを見たとき、「自分たちにこれができるのかなあ」とすごく心配だった。習い始めたとき、すごく難しく、注意されるところが多く大変だったが、舞台上で発表したときはみんなかっこよくできたので、一生懸命練習した甲斐があった。
- ・ 背筋を伸ばして打つのが難しかった。打ち方を覚えてもすぐに打ち方を忘れてしまっていて覚えるのも難しかったけど楽しかった。
- ・ 最初は音を出すのがやっとだったけど、講師の先生に習っていくうちに普通に曲を吹けるようになって楽しくなった。また、加治木の伝統文化としてまたしてみたい。
- ・ 今回初めて天吹をやって、最初は音を出すこともきつかったけど、酸欠になりながらも頑張っって吹いていくうちにだんだんと音も出てきて、舞台では

吹ききった時には気持ちよかったし、加治木の伝統を学べてよい経験になりました。

- 鹿児島に古くから伝わる薬丸自顕流を丁寧にご指導頂いたおかげで、生徒たちは郷土に伝わる伝統を体験することができた。同時に、自顕流を通して、礼儀や他者を尊重する心を養うことができた。
- 薩摩藩士のたしなみとして親しまれてきた天吹を丁寧にご指導いただいたおかげで、生徒たちは素晴らしい演奏をすることができた。指導を通して、伝統文化を継承することの大切さについても学ぶことができた。